since 1982

# 長崎寄席だより vol.230

# 独演会

## 2022 9月24日(土)

開場 17:00 開演 18:00

会場／ひびきホールまいばすけっと3F

［当日プログラム］

一、落語 桂空治
二、落語 桂文治
仲入り
三、粋曲 柳家小菊
四、落語 桂文治

**ホール代**

当日一般：3,000円
前売り・予約：2,700円
会員同伴（1名様のみ）：2,500円
常連会員：1,500円
中・高校生：1,000円
小学生：500円

**ご予約方法**

●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。
もしくは右記のQRからアクセスしてください。

●電話
☎080-3386-2952 長崎寄席世話人会（藤井）

## 落語 桂文治

Profile

かつら・ぶんじ

1967年8月25日、大分県宇佐郡院内町(現・宇佐市)出身。

1986年4月、10代目桂文治に入門、「桂がた治」で前座に。1990年6月、二ツ目昇進、2代目「桂平治」を襲名し、1999年5月、同名で真打昇進。2012年9月21日、末廣亭(東京都新宿区)での襲名披露公演にて、11代目桂文治を襲名。同年の8月12日、文治襲名を祝って、新宿末廣亭前から花園神社までお練りが行われた。落語芸術協会所属の落語家がお練りをするのは初とのこと。

1994年、平成6年度「NHK新人演芸大賞 落語部門」大賞。1997年、第7回 北とぴあ若手落語家競演会「北とぴあ大賞」受賞。1998年、第3回「林家彦六賞」受賞。2009年、「文化庁芸術祭新人賞」受賞。2013年、平成23・24年度「彩の国落語大賞」受賞。

## 粋曲 柳家小菊

Profile

やなぎや・こぎく

東京都府中市出身。早稲田大学第一文学部中退し、1973年、柳家紫朝(鶴賀喜代太夫)に入門する。

1977年、第6回放送演芸大賞(フジサンケイグループ主催)でホープ賞を、同年、第14回ゴールデン・アロー賞(日本雑誌協会主催)の芸能新人賞を受賞する。

1979年、新内師範として「鶴賀喜代花」の名を許される。

東京の寄席を中心に新内と端唄、俗曲、都々逸などを演奏。めざすは「江戸の音色で大人のラブソング」。

【主な持ちネタ】淡海節、さのさ、どどいつ、やぐら太鼓、たぬき、明烏、日高川など。

【出版物】CD「江戸のラヴソング 柳家小菊・ひきがたり寄席のうた」

【趣味】パッチワークキルト スポーツ観戦(観るだけ)

藤井光学は、各種高性能光学系の設計開発および試作から量産まで、
多用なご要望にお応えできる光学設計・製造のプロフェッショナル集団です。

FUJII OPTICAL 藤井光学株式会社

FUJII OPTICAL CO.,LTD.

Designer、Manufacturer of Optical Systems & Lenses

〒171-0052 豊島区南長崎5-9-11☎03-5996-7661



みんなのつぶやき… 長崎寄席雑記

## その男、文治

十一代桂文治後援会 岸間 健貪

その噺家を一言で表わせば「声がでかい」。そう、あの声であの喋り、うっかり聞き逃すようなことは絶対に無いし、話の途中で寝る心配もない。もちろんそれは声の大きさではなく芸のなせる伎なのだが。必然的に高座は熱くなる。

その芸人は日常から和服を着ている。いいねぇ、間違いない。タワーマンションなどには暮らしていない。平屋の借宅に一人住まい。うん、乙だね。

面構えといえば、一時期自ら称していたようにプロ野球北海道日本ハムファイターズの清宮選手に間違えられるくらいだ。決していい男の部類には入れられない。近頃は相手がちっとも活躍してくれないのでそのフレーズも聞かれなくなってしまった。そして頭をきっちりと刈り上げ、鉢巻をしめたらビシッと決まる鯔背な恰好にするために、わざわざ湯島まで毎週通う。

まさに『THE・噺家』だ。この生き物は今どきなかなか生息していない。その咄家は寂しがり屋だ。しかもかなりの重症。お客さんにも弟子にも目いっぱいの接し方をするのはそのせいだろう。弟子をとっていなかった時に教室を開いて素人に落語を教えていた。その熱心さといったら半端でなかった。「ここをそうして」「そこはこう」と指導をしているうちに結局一席丸々やってしまう。教え魔でもある。

時々顔を覗かせる「少年の様な純粋さ」は、やはり寂しがり屋を隠そうとする精一杯のもがきなのかもしれない。師匠のファンにとっては、この姿もたまらなく愛おしい。芸人は板の上で勝負するものであって、私生活などを垣間見せてはいけないと昔の人は言った。しかし高座だけでなく(人としての桂文治)を楽しむのも今どきのファンのひとつの在り方かもしれない。その自然のままの姿と高座のギャップを楽しむのも一興。

さて高座に上り酒を呑ませたら天下一品。徐々にずぶ六になっていく様を見せられたら、知らない人は師匠が大酒呑みと思ってしまうのではないだろうか。が実は普段あまりめしあがらない。打ち上げでも一杯しか口をつけず、周りの呑兵衛たちが紅葉していくのを笑って盛り上げてくれる。生活そのものにも磨き上げられた芸が貫かれている。

その艶やかで多彩な芸に対して、着物は黒の「結び柏」の紋付しか着ない。羽織は滅多に脱がない。このこだわりを貫く。頑固なのだ。様子がいいねぇ。

上方の噺家や先輩・同輩に対しても礼を尽くし、若手には機会を与えることを惜しまない。気持ちいいねぇ。

その振る舞いを見聞きしていたら、清宮が「ハンカチ王子」に見えてきた。

## 長崎寄席物語 【その3 渡辺臣蔵・伴子夫妻】

長崎寄席 世話人 柴田 紀和夫

南長崎4丁目に住んでいた渡辺臣蔵・伴子夫妻は、長崎寄席にとって忘れられない大恩人です。臣臓さんはお年寄りの方なら覚えていると思いますが、丹波哲

郎、平幹二朗、長門勇が出演していたテレビ「三匹の侍」のシナリオライター。伴子さんは日本銀行に勤務されていました。

二人は長崎寄席の2回目からほぼ皆勤賞で、長崎寄席のあの苦闘期、お客さまが集まらない時に、10名以上の知り合いに声をかけて連れて来てくれました。お客さまが10人以下という状況の時に、どかどかとお客さまが入って来たときのホッとした気持ちは今でも忘れられません。

伴子さんが会社勤めのため、臣蔵さんは家で脚本を書くかたわら、掃除、洗濯、炊事の任務を分担していました。臣蔵さんの作る料理が絶品で、自然に渡辺宅で寄席終了後の打ち上げをするようになりました。出演者、世話人等が集まる場は楽しく和やかで、「よし次回も頑張るぞ」の起爆剤になりました。そのうち、遠くから来た芸人さんがパジャマ持参で渡辺宅の2階に泊まるようになりました。現・柳橋、菊寿、南なんさんあたりがよく泊まっていました。寄席以外の日になんとなく渡辺宅に集まり、近所に住んでいた三遊亭吉窓さんにも声をかけ、楽しく飲んだ事を思い出します。

渡辺さん宅での打ち上げで、忘れられない事がありました。ある芸人さんから「地域寄席は芸人を食い物にしている」と言われたのです。「こっちは身銭を切ってやっているのに」と思わずかっとなり、「もう長崎寄席はやめた」と無言で帰ろうとしたその時でした。伴子さんが玄関まで追いかけて来て、私の手を離さず「柴田さん、帰っちゃだめ。長崎寄席を潰さないで!」と引き留められたのです。ハッと思い直して座に戻りましたが、多分あのまま帰ったら、長崎寄席は終わっていたかもしれない。よく思い止まらせてくれたと伴子さんに感謝しています。

写真左から４番目の髭のおじさんが臣蔵さん。その隣が若き日の林家たい平さん、その隣が伴子さん。

残念ながら臣蔵さんは２０１４年６月にお亡くなりになり、伴子さんは施設暮らしです。

各病・医院処方箋調剤

漢方相談／東京中医学研究会々員
薬剤師・広田 悦造

（有）ホーム薬局

東京都豊島区南長崎5-10-10
☎03-3951-2869FAX 03-3952-2823

【芸人交遊録／第2回目】

## 藤山新太郎

長崎寄席 世話人 石田 隆則

私が初めて藤山新太郎さんを見たのは、芸人としてではなく自分と同じ客として



でした。その頃は彼が「和妻の名人・藤山新太郎」だとは知らなかったのです。

今から40年くらい前、吉祥寺の今はなきライブハウスＢｅ Ｐｏｉｎｔでは毎月2日間だけ「Ｉｔ's Ｍａｇｉｃ」というマジックの会を開いていました。わたしも通い始めたのですが、毎回後ろの方であれはどうのこれはどうのと話しをしている人たちがいるのです。1人はＢｅ Ｐｏｉｎｔの社長・森岡氏で、もう1人は藤山新太郎さんだったことは後からわかりました。「そこの2人、うるさい!」とほかの客から怒られることも…。毎月通ううちに、藤山さんと話をするようになりました。

あるとき、藤山さんからご自身のマジックの会のチラシをもらったので行ってみることにしました。和妻ですから、「東西、東西」の口上で始まり、音楽も音源ではなく尺八、三味線、太鼓などすべて本物の生演奏。豪華で贅沢な鳴り物でした。俗にいう「チン・トン・シャン」の世界です。すべてにおいて本物志向の藤山さんらしいやり方でした。

少し膝を曲げてゆっくりと歩く姿や美しい所作で決めるという手の動き。また、お弟子さんにも手妻を教えるだけではなく、所作を身に付けさせるために日本舞踊・邦楽なども習わせていたことからも美意識の塊のような人だと感じずにはいられません。着物も好きで、普段からよく着物を着ています。高円寺を着物で歩いてる人がいたら、それは藤山さんかもしれません。

和妻という日本独特の手品なので、海外公演も多いと聞いています。マジックの世界最大規模の団体であるＦＩＳＭの北京大会にトリで出演したこともあります。そこで見せた水芸の見事なこと!すばらしい出来栄えで拍手喝采でした。その翌日、藤山さん、お弟子さんたちと行った紫禁城見物も含めて本当にいい思い出になりました。

そんな藤山さんですが、糖尿病が悪化して今にも死ぬんじゃないかと思われたこともありました。私自身も糖尿病なので「それは医者が悪いんだよ。薬が合ってないんだよ」といって医者を変えさせました。そうしたらどうでしょう。みるみる元気になり、症状が改善したのです。おかげで藤山さんからはとても感謝されました。

今は頭もかなり白くなり、若い頃よりもだいぶ丸くなったようですが、未だに弟子を取り、やる気満々で活躍しています。藤山新太郎さん、いつまでも病気に負けず、がんばってください!

## 怒涛の『真打ち4連続公演』決定しました!

長崎寄席 世話人代表 藤井 岳美

本年9月以降の長崎寄席の顔付けがほぼ決定いたしました。記載のとおり、人気真打ご出演の豪華ラインナップとなります。手前味噌ですが予約必須です。これからの長崎寄席にご期待ください。なお、来年3月の会のみ申し訳ありませんが通常日程からずれます。ご注意ください。

●2022年11月26日(土)
**林家正蔵 独演会**

●2023年1月28日(土)
**柳家小八・柳家燕弥 二人会**

●2023年3月18日(土)
**春風亭一之輔 独演会**

## 前回の長崎寄席

# 林家けい木・春風亭一花二人会

［第230回 長崎寄席］
2022年7月23日（土）

一、真田小僧　林家けい木
一、お菊の皿　春風亭一花
一、厩火事　瞳ナナ
一、マジック　春風亭一花
一、のめる　林家けい木
一、三方一両損　桂空治

## 世話人だより

■夕方でも30度を越す夏の盛り。そんな暑さの中にも関わらず、今回も多くのご来場ありがとうございました。

■まずは世話人会からのご挨拶。本日の出演者紹介から始まり、3月までの半年間の予定を発表。3月の会は3月18日（土）となります。いつもの最終土曜日ではないのでご注意ください。

■今回の前座は、桂文治さんの弟子の桂空治さん。空治さんは弟子入り三年目。次回9月24日の長崎寄席で開催される文治さん独演会の宣伝から始まり、その前週9月17日には襲名十周年記念落語会も開催。師匠の宣伝をという大仕事を終えた後に始まったのは「真田小僧」。悪知恵で父親から小遣いをせびる金坊の小生意気でも憎めない語り口が、開始早々に多くの笑いを誘います。

■続いては林家けい木さん。柳家かゑるさんと一緒に来られて以来、長崎寄席には二度目の出演です。落語の敷居を高く感じている方から「音声ガイドが必要か」と聞かれたエピソードを紹介しつつ、寄席で配られるのならきっとこんな音声ガイド、というイメージ紹介。そんな音声ガイドがあったらぜひ聞いてみたいです。そうして始まった話は「お菊の皿」。番町皿屋敷の幽霊お菊さんの美しい顔をひと目見ようと集まり始める男たちと、それがまんざらでもなくなるお菊さんのやりとり。怖さどころか愛嬌全開のお菊さんに振り回される男衆の滑稽さを面白おかしく演じてくれました。

■前半を締めるのは春風亭一花さん。女子校あるある話から始まる身近な小噺から繋ぐのは「厩火事」。ダメ亭主に惚れた女房おさきさんの、愚痴と言う名の惚気を聞かされる旦那さん。呆れつつも、亭主の想いを試すよう伝える旦那さん。二人の会話の些末なところからも亭主への惚気につなげていく。そんなおさきさんの少しずれた溺愛っぷりが可笑しく、そのずれた可笑しさから亭主への想いの強さがひしひしと感じられます。

■恒例のふくびきを経て仲入り。今回のふくびきは、ほとんどの来場者に何かが当たるという大盛況日。当選した皆様、おめでとうございました。

■仲入り後は、魔女界からやってきたマジシャン瞳ナナさんの華麗なマジック。消えては現れを繰り返すスティック、切れて繋がる不思議なロープ、無限の動きを見せる五本のリンキングリング。巧みな手捌きは、長崎寄席の舞台を瞬く間に魔女の世界へと変貌させます。最後は、壇上を彩る多数のハンカチマジックをマジカルハートの歌に合わせて披露。幾多の魔法で来場者を魅了した魔女は、颯爽と魔女界へ帰還を果たすのでした。

■後半一席目は春風亭一花さんの「のめる」。本人も自覚せぬままうっかり出てしまう、よくない口癖。それを注意しあいつつもうっかり口癖を言わせ合おうとする滑稽な騙し合い。うかつに騙されはっつぁんと、それを見抜き上手く切り返すはんさんの知恵比べ。はっつぁんの騙し慣れぬ言い回しと軽快な口調でやり返すはんさんの口八丁さとの見事な対比を演じてくれました。

■本日のトリを務めるのは、林家けい木さん。週刊少年ジャンプで連載中の「あかね噺」の落語監修を行っているということで、噺家視点での愉快な裏話を披露しつつ語られるのは「三方一両損」。気風は良いが口の悪い江戸っ子の、妙な意地の張り合い。財布を落とした吉五郎と拾った金太郎と二人の大家。気風の良い啖呵に聞き惚れつつ大岡様の名裁きを見届けたところで、本日の長崎寄席もお開きとなりました。




地域密着の不動産業者

**足立土地住宅社**

東長崎駅・椎名町駅周辺の
マンション・アパート・駐車場等の
管理、仲介を行っています。

豊島区南長崎5-20-16
☎03-3951-3665FAX 03-3954-2325

住宅建築設計施工／一級建築士事務所

**株式会社
岩井工務店**

町の工務店です。
住宅の新築・リフォームを主に行っています。

豊島区長崎4丁目17-5
ライオンズマンション東長崎108号
☎03-3957-1456FAX 03-3957-1459

電子部品製造

**ムサシ電子
株式会社**

確かな技術で
高い信頼をお届けします

豊島区千早3-12-3
☎03-3959-3351FAX 03-3959-4990

**鮎沢歯科医院**

☎03-3565-0118
豊島区南長崎5-14-2
バス停前

Webもチェック!
<<< 長崎寄席Webサイト
長崎寄席twitter >>>

福祉に関することでお困りの時は何でもお気軽に
みんなで支え合う暮らし・みんなの街
地域福祉研究会
ゆきわりそう
〒171-0052 東京都豊島区南長崎5-21-7
☎03-3565-3859

せき・こえ・のどに「浅田飴」
【効能・効果】せき、たん、のどの炎症による声がれ・のどのあれ・のどの不快感・のどの痛み・のどのはれ
4種類の生薬（キキョウ、トコン、マオウ、ニンジン）がせき、たん、のどの諸症状に効果を発揮します
cool　nikki　passion
浅田飴 クールs/ニッキs/パッションs
第2類医薬品
これらの医薬品は、薬剤師、登録販売者に相談のうえ、「使用上の注意」をよく読んでお使いください。
https://www.asadaame.co.jp/　〒171-0052　東京都豊島区南長崎 3-1-5

優良菓子卸
柴田商店
小売も始めました
○ 菓子袋詰め、進物
○ 紀州梅干
豊島区南長崎5-3-13
☎03-3951-5933
FAX 03-3951-5483

次回告知
第232回 長崎寄席
林家正蔵独演会
沙門 雲（マジック）
2022 11月26日（土）
開場／17:00開演／18:00
会場／ひびきホール
まいばすけっと3F
・西武池袋線東長崎駅から徒歩4分
・都営大江戸線落合南長崎駅から徒歩8分
当日一般：3,000円
前売り・予約：2,700円
常連会員：1,500円
会員同伴（1名様のみ）：2,500円
中・高校生：1,000円
小学生：500円
ご予約方法
●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。もしくは右記のQRからアクセスしてください。
●電話
☎080-3386-2952
長崎寄席世話人会（藤井）